



EDUCATION

「私の大好きな三松小」

三松小学校

私 の大好きな三松小は、児童数433名で、四つのお話をがんばっています。

一つめはあいさつです。「元気よく、先にあいさつ」を合言葉に、登校すると「おはようございます。よろしくお願ひします」と元気よくあいさつします。一日が始まるんだと気合を入れるために、6年間毎日続けています。

二つめはボランティアです。朝にボランティアタイムを設け、上級生も下級生も積極的に取り組んでいます。6年生の姿を見て、今では1年生もボランティアに参加するようになりました。

三つめは集団行動です。並ぶときや移動するときは無言で動きます。全校朝会の時には立ったり座ったりする音がそろっていて気持ちがいいです。

四つめは無言清掃です。「とむすじあ」を合言葉に、チャイムが鳴ったら一分間黙想をして、心を落ち着けてそうじを始めます。

この四つは三松小で昔から引き継がれてきた伝統です。みんなで協力してがんばる。

み なのが、夏に三松地区の祭りです。ダンスやクイズ、屋台や打ち上げ花火と盛りだくさんです。

今年、6年生なので、手伝いをしました。チケットを切ったり、ポスターを描いたり、当日にアシスタントをしたりしました。

最初は楽しかったけど、口数が少なくなり、疲れが見えてきました。

「毎年、こんな仕事を誰がしていたのだろう。」

そんな声が聞こえてきました。手伝いを通して、祭りを成功させるための大変さを少しだけ知ることができました。

祭りの他にも、多くの行事があり、そこには保護者の方々の支えがあります。

その支えに感謝して、勉強やスポーツを努力し、保護者の方々に喜ばせて、恩返しができるくらいと思います。

(六年代表 和田たまえ)



小林の大河ドラマ第五話「九州戦国時代の終焉」

Vol.62

九 州地方には、すでに島津氏以上の勢力はなく、九州制覇を目前としていた島津氏でしたが、世の中、上には上がいるものです。島津氏の夢を打ち砕いた人物こそ、豊臣秀吉。このとき、豊臣秀吉は、織田信長が本能寺の変で自害した後、織田信長の後継者として本州を統一していたころでした。

島津氏に耳川の戦いで敗れ、弱体化していた豊後の大友氏の要請にこたえる形で、秀吉は、各地の名だたる戦国武将で編成された大軍を率いて九州に降り立ちます。これが日本史の教科書などに出てくる秀吉の九州平定です。北九州に降り立った豊臣軍は、その圧倒的な大軍をさらに2つに分け、秀吉は福岡↓熊本↓鹿児島ルートで、弟の秀長軍は、大分↓宮崎↓鹿児島ルートで島津氏を挟み込む形で進軍していきます。

何度か抵抗を試みた島津氏ですが、相手は天下統一の覇者豊臣秀吉です。最終的には、秀吉に全面降伏することとなり、これまでの戦で手に入れてきた九州の領地も没収されましたが、秀吉傘下に入ることを条件として、今の鹿児島県全域とえびの、小林、綾、国富、高岡、都城といった地域までが島津氏の領地として安堵されることとなりました。

このような歴史的な出来事があった、私たちの住む小林は、この後の江戸時代の約270年間、明治時代の廃藩置県まで島津藩領(薩摩藩・鹿児島藩ともいう)としてさらなる歴史を刻むことになるのでした。

戦国時代末期から江戸時代という長い年月を通して、島津藩の一部として有り続けたことよって、小林には、現在でも残る薩摩文化が数多くあります。西諸県弁や田の神さあ、郷土芸能など目に見えないもの、見えないものの形はさまざまだと思いますが、きっと今の私たちの礎となっていることでしょう。

小林の大河ドラマ「元」



SPORTS

市内の小中学生ら全国・九州で活躍！



1 三松中女子ハンドボール部 2 小林中男子ハンドボール部 3 小林中新体操部 4 三松中男子ハンドボール部 5 小林中柔道部 6 小林中バスケットボール部 7 小林中陸上・駅伝部 8 小林 Jr アスリートクラブの後藤愛依さん

県 大会で上位入賞し、全国大会や九州大会に出場した市内の小・中学生が市長を訪問しました。小林Jrエアスリートクラブの後藤愛依さん(小林小)が全国大会に、九州大会に出場しました。

総体で優勝などした、小林中の柔道部、陸上・駅伝部、男子バスケ部、新体操部、男子ハンドボール部、新体操部、三松中の男女ハンドボール部が全国、九州大会に出場しました。



国際交流『シャネットの徒然なるままに』

『魔法のお話し』

Vol.28

日 本では、日本語は大変難しい言語だと思われているようです。が、そうではないと思います。

私は言葉が好きで、今まで7ヶ国語を習ったことがあります。残念ながら、今話せる言葉は母国語ドイツ語以外に、英語と日本語だけです。

以前は、フランス語も喋れたんですが、学校を出てから全く使わずにいたら、いつの間にか「日本語」という山のしたで、静かに眠ることになりました。

その習ってきた言葉の中で、日本語が2番目に優しい言葉です。文法は割と単純で、例外がほとんどありません。長い言葉もあまりないですし、発音も特に難しくありません。日常会話なら、あっという間に習得できます。ただ、日本語は奥深い言葉なので、綺麗な日本語を喋れるようになりたいと思えば、相当努力が必要だと思います。

ちなみに、7ヶ国語を習うことは、英語だけで苦労した人にとってすごいことなんです。実は、一つ目の外国



語が一番大変です。もちろん、母国語を習得するのに一番時間がかかりません。10歳になっても、分からない単語がたくさんあるでしょう。でも、3つ目の外国語から、ペーシングがかなり早くなり楽しいです。

新しい言語を覚えると、頭は言葉のほかに、言語の覚え方も覚えます。

なぜ言語をたくさん覚えようと思ったかというと、言葉に国の文化が含まれているからです。学ぶことを通じて、その国の文化をより深く理解することが出来ます。そして、話しているときはその国の文化に染まり、自分が変わるのです。まるで魔法みたいです。